



ガイア自然学校の キャンプに参加する前に 保護者の方に知ってほしい3つのこと



ご参加いただくお子さまに **すばらしい体験** となりますように、
自然の中で **楽しいことや感動的なこと** たくさんあるキャンプですが、
それだけじゃないのが **教育キャンプ** の良いところです。

以下のことをお知りいただいた上でご参加いただくと、
お子さまにとって、より大切な経験としてキャンプが輝きます。

(1) 目的は **子どもたちの主体性** を育てること。



食器は自分で洗います。
着替えも自分でします。(幼児はお手伝いします。)
「たのしいこと」も自分からさがそう。
ケンカしたっていい。(暴力はダメです。)

キャンプ中は、担当リーダーと一緒に生活を行い、子どもたちの様子をちゃんと見ています。

しかし「**お世話する**」のとはちょっと違います。

できるだけ、子どもたち自身で「できること」をできるように声を掛けサポートをします。

集団生活は、子どもたちにとって楽しいだけの体験ではなく、時にはつらいと覚えることもあると思います。担当リーダーは、常に子どもたちに寄り添い、その気持ちをしっかりと受けとめることを行います。ただし、その辛い気持ちを解決するために大人が手を出しすぎると、子どもたちは自ら解決しようとする力を失います。そうした「**自ら解決しようとする力**」を育むためにも、キャンプはとても効果的なのです。自ら「**たのしもうとする気持ち**」もそこから生まれます。

時にはケンカも起こります。ただそこで、大人がジャッジしてどちらか一方を「悪い」「良い」だけで判断するのではなく、できるだけ子どもたち自身が自分の気持ちで話しができるようにリーダーと一緒に話しをします。解決はしないかもしれませんが、しかし自分の気持ちを見つめ直す時間が大切です。

(2) 安全は 自ら危険を察知する力 を育てること。



危険を知ることが大切です

ちょっとしたケガはよくあります

ムリはさせません

転んだからこそ育つ力もあります

自然の中での生活は、危険がたくさんあります。

あぶない虫もいるし、地面はデコボコで転びやすい、海や川であそべば溺れる危険性もある…。

当然ながら「事故」が起きないように、様々な安全対策は行います。

水あそびには必ずライフジャケットを付けたり、ナタや包丁など刃物を使うときはちゃんと「安全な使用方法」を教えた上で使います。

ただ、危険だからといって全部を取り除いたり、大人が心配しすぎて子どもの行動を制限しすぎるのは、子どもたちの「危険を察知する力」を失わせてしまいます。

そのことの方が、**将来的にとっても危険なこと**なのです。

転んだり、小さいケガはしてもいい。けれどちゃんと危険を知ってもらうことを諦めません。

ガイア自然学校のリーダーは、子どもたちと安全に自然体験をするために毎週研修を受けているのです。

(3) 自然は 思い通りにならないこと と知ること。



雨の日もあります

カブトムシがとれないこともある

魚がつかないこともある

天気によっては海や川であそべないこともある

原則として「安全」が優先されますので、ひどい天気時には予定どおりにあそべないこともあります。それも自然として知り、その時安全にできることで活動していきます。

ムシキャンプだけど、思った通りのムシが採れないこともあります。あくまで「自然」の体験を大切にしているのでホームセンターで買ってきたカブトムシを配ったりしません。フィッシングキャンプでは「釣り方」は教えますが、絶対全員魚が釣れるとは限りません。それも自然です。

くやしい気持ちはわかります。そこに寄り添うことは忘れません。しかし、その**悔しい気持ちも大切な体験**のひとつです。